

# CIRJE Newsletter

東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センターニューズレター

No.19

2013年4月

Center for  
International Research  
on the Japanese Economy  
Faculty of Economics  
University of Tokyo  
(CIRJE)

## ■ 新センター長ご挨拶 ■

日本経済国際共同研究センター長・大学院経済学研究科教授

松井彰彦



日本経済国際共同研究センター（CIRJE）は、日本経済やその関連分野の国際的な共同研究を推進する場を提供するために、1998年に設立されました。CIRJEは、東京大学大学院経済学研究科に附属し、専任スタッフに加えて同研究科のスタッフが多数研究活動に参画しています。

CIRJEは、マイクロワークショップ、マクロワークショップなどさまざまなワークショップを定期的に主催しており、そこでは常時最新の研究が報告され、議論されています。国際共同研究センターの名前にふさわしく、昨年度は海外からのべ74名の報告者が来日し、論文発表を行いました。また、国内外から47名の研究者が客員として、CIRJEを訪問・滞在し、共同研究を行いました。

一般社団法人住宅生産団体連合会のご支援による住宅政策研究会をはじめ、多くの研究プロジェクトも並行して行われています。昨年度は13件の研究プロジェクトが並行して進められました。その内容も「東日本大震災と住宅復興（代表：国友直人教授）」や「Studies on Suicide (SOS) Project（代表：澤田康幸教授）」といった社会的要請の高いものから「マクロ経済学の数学的基礎（代表：吉川洋教授）」といった理論的なものまで多岐に渡っています。

CIRJEは、欧米の研究者だけでなくアジア各国の研究者と積極的に国際共同研究を行い、共同研究の拠点として内外の研究者に情報の提供や共同研究の場を提供しています。その共同研究プロジェクトの一環として、昨年度は2012年11月16日（金）に韓国ソウルでソウル国立大学と、また12月14日（金）に東京

大学で韓国・延世大学と、それぞれ国際コンファレンスをそれぞれ開催し、世界経済が抱える経済問題を、短期的・中長期的な観点から討論しました。

ソウル国立大学との国際コンファレンスは、CIRJEが同大学の経済研究所（Institute of Economic Research）と毎年開催している経済政策に関するコンファレンスで、今年度はマクロ経済を中心に、日韓が抱える経済政策に関する問題や適切な制度設計のあり方を多岐にわたって議論を行いました。一方、延世大学とは今年度はじめて本格的な国際コンファレンスを共催し、日韓両国が抱えるマクロ、金融、環境など、幅広い経済問題を議論しました。

他の研究機関との協調も進めています。昨年度は、「Tokyo Workshop on Spatial Economics」という国際コンファレンスを独立行政法人経済産業研究所（RIETI）と共催で行い、前センター長の田淵隆俊教授がオーガナイザーを務めました。

CIRJEは進化しています。本年度新たに設定した目標は、（終身雇用権のない）テニユア・トラックにいる若手の経済学研究科講師にさまざまな支援を提供することです。具体策を次回のニューズレターで報告させていただければ、と考えております。

CIRJEは本年度以降も、これまで以上に、積極的に国際比較研究の視点を打ち出し、内外の研究者に共同研究の場を提供し、情報を発信していきたいと考えています。CIRJEの今後の発展に向けて、関係各位から一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

CIRJE Newsletter

目次

新センター長ご挨拶

■  
客員スタッフより

■  
CIRJE  
ディスカッションペーパー  
シリーズ

客員スタッフ

スタッフ

当センターでは国内外の大学、研究機関から研究者の方をお迎えし、研究活動を行っております。今回は 2012 年度に滞在された客員スタッフの皆様に、当センターに対する感想や研究内容を伺いました。

## 客員教授・客員准教授

Bangladesh Institute of Development Studies  
Minhaj Uddin Mahmud  
(2012.6.1 - 7.31 滞在)



2012 年 6 月から 8 月、東京大学 CIRJE への滞在期間中、大変素晴らしい時間を持つことが出来ました。この滞在は、私の研究人生でも大変有意義で生産的なものとなりました。澤田康幸教授達とのいくつかの共同研究に従事し、CIRJE の Tokyo Workshop on International Development、政策研究大学院大学、日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所、一橋大学、関西・開発ミクロ経済学研究会（KDME）などで発表をいたしました。学術交流の大変素晴らしい機会を与えていただいた澤田教授や、機会を提供して下さった東京大学澤田研究室や CIRJE へ深く感謝申し上げます。

我々は、経済発展に重要な行動の基となる個人の経済的意思決定の研究を行っています。第一に、プロジェクトの目的は、貧困層の人々が貯蓄や正しい投資を通じて持続的な生計を立てられる手助けをすることです。そのために工場労働者の貯蓄プログラムの介入後効果を調査する予定です。特に、介入中の高い貯蓄率が、介入が終わった後も習慣化していくかどうかを調査します。習慣は、よりよい生活のための所得の流れを管理する「自制心」を育むために重要なポイントです。

このような研究準備から、私は調査を計画のうえ、現地調査のための実験のプロトコル（規範）を設計し、7月にバングラデシュに帰国した後、バングラデシュ・ダッカ付近の女性繊維業労働者に対して小規模の試験的な貯蓄プログラムを開始しました。引き続き、フィールドデータの分析の後プロトコルを改訂する予定です。また、バングラデシュにおける車両運転手の戦略的危険選好、オートリキシャ（原動機付き軽三輪車）のドライバーによる不正な値つけ行動／統計的差別についてのフィールド実験の準備を行いました。さらに、バングラデシュで事前に収集したデータを用いて、様々な生活場面での幸福度の測定に関する論文執筆にも取りかかりました。同様に、バングラデシュでのデータを基にした都市通勤者の交通手段の傾向に関する論文にもとりかかりました。

東京大学・赤門の美しい環境に囲まれ、素晴らしい時間を過ごすことができました。また戻れる日があることを願っております。

Department of Economic History,  
London School of Economics  
Leslie Hannah  
(2012.10.1 - 2013.1.31 滞在)



数年の間を経て東大に戻りましたが、いくつかの変化に気が付きました。仲間の数人が退職し（幸運にも教員用のコーヒーラウンジで彼らとの対話を楽しむことはできましたが）、ある者はそれに相応しい昇進を果たし、聡明な新しい教員も採用されていました。学部生だった学生たちは博士号を取得し、ジョブマーケットに向かっていました。谷中の以前の住まいの近くにあったなじみの寿司屋は震災後に姿を消していましたが、本郷通に近い「追分インターナショナルロッジ」という東京大学のビジター向けの宿泊施設へ滞在したお陰で、新しいレストランや白山のパブを開拓できました。

東京大学は良い意味で以前と全く変わっていませんでした。経済学図書館はグローバルな経済史に興味のある者にとってはただ圧倒される場所です。あらゆるテーマを網羅した豊富な蔵書、いつも親切なスタッフの方々。それはまさに私がよくヨーロッパの同僚たちに言う通りです。「ドイツ語の書籍は Staatsbibliothek zu Berlin へ行けば見つかる。フランス語の書籍なら the Bibliothèque Nationale de France で、英語ならば the British Library で見つかる。だがそれらを一同に見たいならば東京大学へ行くべきだ！」と。また経済制度の進化をアジアと比較するという私の研究の中心的なテーマに関しては、ここには多くの親切な仲間がいます。彼らはその専門的な経済知識を分け与えてくれ、私の史的データベースに日本はむしろのこと韓国や台湾の重要な情報を取り入れる日本語文献を特定する手助けをしてくれました。

以前からの研究を完成し、新たなプロジェクトを始めると、4ヶ月が瞬く間に過ぎました（前回は4年間の滞在でした）。コーポレートガバナンスや会社形態の採用についての国際的な差異に関するディスカッションペーパーを刊行しましたが、セミナー発表で教員や大学院生、研究者からの鋭い指摘を受け、研究は大いに進捗しました。現在、1914年-1962年の工場規模の国際比較、アジアと西洋での証券取引所の役割の差異に焦点をあてる研究を進めています。この地を去ることは大変残念ですが、これから5ヶ月間、別な4カ国に滞在する予定です。夏に短期客員研究者としてこちらに戻り、実証的な研究を終えたいと考えています。東京大学の経済史研究者や多彩な研究者の皆さんとの意見交換を続けて行ければ幸いです。

一橋大学経済研究所

宇南山 卓

(2012.12.1 - 2013.3.31 滞在)



2012年12月から4ヶ月間、CIRJEでの研究をする機会をいただきました。大学・大学院を過ごして以来、10年ぶりの東京大学での研究活動を楽しませていただきました。

CIRJEでは、政府統計の性質についての研究に取り組みました。特に、GDPを扱う国民経済計算、人口のセンサス調査である国勢調査など、日本の統計の根幹となる主要な統計の問題点を明らかにすることを目標として研究を進めました。

政府統計の現状では、作成は官庁の実務家や統計学者が担い、ユーザーである経済学者はその結果を天下りの受け入れという構図が一般的で、作成者と利用者の問題意識が十分に共有されていませ

ん。その状況を少しでも改善するために、統計実務を理解し、統計の問題点を明らかにした上で、適切な分析方法を提示することを目指しました。

この目的のためには、地理的にも人的ネットワークとしても政府統計の中心である東京大学で研究できたことは有意義でした。科研費のプロジェクトでもご一緒させていただいている国友直人教授をはじめとし、多くの研究者からコメントをもらうことで、自分の研究の改善が可能でした。また、地理的にも政府の統計作成担当者との連絡が容易であり、作成実務に関する多くの情報を収集することができました。さらに、ランチ時の雑談など日常的な接点が増えることで、新たな研究テーマを発見することも出来ました。

このような貴重な機会を頂いたことを心から感謝しております。また、素晴らしい研究環境を用意して下さったCIRJEのスタッフの方々にも感謝しております。今後の研究活動で成果を出していくことを通じて、少しでも恩返しが出来ればと考えております。

## 短期客員研究者

野村財団・短期客員研究者

International Monetary Fund

Seung Mo Choi

(2012.6.5 - 6.12 滞在)



昨年の夏、光栄にも東京大学、CIRJEへお招き頂きました。東京大学は経済学界への貢献で広く知られており、その研究環境や教員との研究に興味を持っていました。私の初の滞在は約一週間程度で、正直に申し上げて、CIRJEや経済学部の全てを楽しむには短いものでしたが、Seung-Gyu Sim氏や他の教員の皆様との議論は実りあるものでした。私の発表は“Trade, Structural Transformation, and Growth”、という二名の共著者と書いた最近の論文が基となったもので、大変有益なフィードバックを得られました。研究施設は素晴らしく、スタッフの方々にも大変親切に対応して頂きました。滞在中の主な研究は、セミナーで発表した論文を発展させたもので、より判りやすい経済の仕組みを導入し、新興経済国のデータを用いたモデルにあてはめました。特に、より実際の政策提案を示すことに焦点を当てました。Seung-Gyu Sim氏と私は、探索理論モデルをどう導入するかについて議論を行い、この滞在中の研究は、新興経済国において、国際貿易に開かれているということが、どのようにその国の構造変化や経済成長の速度に影響しうるか、を理解するのに今後役立つと思われます。

Seung-Gyu Sim氏、セミナー参加者やCIRJE、経済学研究科の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、次回の滞在中を楽しみにしております。

野村財団・短期客員研究者

Department of Mathematics

University of Sherbrooke

Eric Marchand

(2012.10.19 - 10.29 滞在)



2012年10月下旬に、初めての日本滞在中で東京大学CIRJEを訪れましたが、大変素晴らしい滞在中となりました。

久保川達也教授との共同研究では、与えられた確率変数の将来の観測値をモデル化するため予測密度の推定という問題に焦点を当ててプロジェクトを立ち上げました。すなわち、ポアソンモデルやパラメータに制限がある場合の予測問題や二乗誤差損失を積分した損失関数 (integrated squared error loss) のもとでの多変量正規分布の予測問題について調べました。後者は、カルバック・ライブラー情報量に関して研究したディスカッションペーパーCIFJE-F-843 (2012年3月)の続編にあたるものです。私は近年予測密度の推定問題、中でも、ベイズ的分析と決定論的問題に関して特に関心を持っています。滞在中に行ったセミナーでは、これまでの研究成果や最近の研究内容について報告することができ、またこの興味深く魅力的な研究について他の研究者や学生と交流することができました。

最後になりましたが、今回の滞在中を実りあるものにして下さった久保川教授とCIRJE・田中氏のもてなしに感謝申し上げます。

野村財団・短期客員研究者

Department of Economics

University of Ottawa

Jean-François Tremblay

(2012.10.21 - 10.28 滞在)



大変幸運にも2012年10月の一週間、CIRJEで研究滞在中ができました。私の最近の研究テーマは地方分権化下での公害規制であり、特に、公害被害が他の行政区域に及ぶ場合、非協力的に行動する政府間であっても効率的に公害規制を達成できる諸条件について研究を進めてきました。今回は、この研究成果を東京大学の優れた研究者の方々の前で発表することができました。また今回の訪問で、林正義先生と共同で進める、カナダにおける平衡交付金制度の財政安定化効果に関する研究にも着手できました。この研究は平衡交付金自体を考察するだけでなく、一般的な地域間財政移転に関する制度設計に関する知見も得ることが出来る応用性が高い研究になるでしょう。このように今回の滞在中は非常に生産的で充実したものとなりました。また東京大学を訪れることを楽しみにしております。

# CIRJE ディスカッションペーパーシリーズ

[http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/03research02dp\\_j.html](http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/03research02dp_j.html)

当センターでは2つのディスカッションペーパーシリーズ（Jシリーズ：日本語、Fシリーズ：外国語）を刊行しており、2012年10月から2013年3月は、Jシリーズ3件、Fシリーズ19件が刊行されました。発行されたディスカッションペーパーは国内外の大学・研究所等に送付される他、上記のホームページからダウンロードすることも可能です。

## 客員スタッフ

当センターの重要な役割の一つに、海外からの研究者の受け入れと研究交流促進があります。国内外の優秀な研究者を幅広い分野からお迎えして研究活動を行っております。下記のリストは2012年後期客員スタッフの一部です。

### 客員教授

- Leslie Hannah (2012.10.1 - 2013.1.31)  
Department of Economic History,  
London School of Economics, UK
- John Riew (2012.10.23 - 10.26)  
Department of Economics, Pennsylvania State University, USA

### 客員准教授

- 渡邊純子 (2012.8.1 - 11.30)  
京都大学大学院経済学研究科・経済学部, 日本
- 萩原景子 (2012.10.30 - 11.2)  
Asian Development Bank, Philippines
- Charles Keith Head (2012.11.6 - 11.7)  
Strategy and Business Economics Division, Sauder School of  
Business, University of British Columbia, Canada
- Jungmin Lee (2012.12.10 - 12.12)  
School of Economics, Sogang University, Korea
- 宇南山卓 (2012.12.1 - 2013.3.31)  
一橋大学経済研究所, 日本
- 高橋悟 (2012.12.17 - 12.21)  
Department of Economics, National University of Singapore,  
Singapore

### 短期客員研究者

- Eric Marchand \* 野村財団・奨学研究員 \*  
(2012.10.19 - 10.29)  
Department of Mathematics, University of Sherbrooke,  
Canada
- 鎌田雄一郎 (2013.1.14 - 1.19, 2013.3.12 - 3.13)  
Cowles Foundation for Research in Economics, Yale University,  
USA
- Jean-François Tremblay \* 野村財団・奨学研究員 \*  
(2012.10.21 - 10.28)  
Department of Economics, University of Ottawa, Canada
- Christina Carlsson Wetterberg \* 野村財団・奨学研究員 \*  
(2013.3.18 - 3.24)  
Department of Humanities, Education and Social Science,  
Örebro University, Sweden

## スタッフ

### 専任スタッフ センター長

松井彰彦  
東京大学大学院経済学研究科



### 教授

国友直人  
東京大学大学院経済学研究科



市村英彦  
東京大学大学院経済学研究科



田淵隆俊  
東京大学大学院経済学研究科



澤田康幸  
東京大学大学院経済学研究科



福田慎一  
東京大学大学院経済学研究科



### 顧問

- 翁 邦雄 (京都大学公共政策大学院教授)
- 神田秀樹 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)
- 西村和雄 (神戸大学社会科学系教育研究府特命教授)
- 浜田宏一 (Tuntex Professor Emeritus of Economics,  
Department of Economics, Yale University)
- 水口弘一 (経済同友会終身幹事、野村総合研究所顧問)

### 運営委員会

#### 運営委員長

松井彰彦 (東京大学大学院経済学研究科)

#### 運営委員

- 伊藤元重 (東京大学大学院経済学研究科)
- 谷本雅之 (東京大学大学院経済学研究科)
- 田淵隆俊 (東京大学大学院経済学研究科)
- 福田慎一 (東京大学大学院経済学研究科)
- 渡辺 努 (東京大学大学院経済学研究科)

## CIRJE Newsletter No.19

2013年4月

東京大学大学院経済学研究科附属  
日本経済国際共同研究センター  
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
tel +81-3-5841-5644 fax +81-3-5841-8294  
<http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/indexj.html>